

第三百二十六話 遠大・深謀遠慮な米戦略

日米の差は何だろうか？国力だけではないと思わざるを得ない。思考法とその具体化力に根本的な差があるように思えてならない。長期的視点、大所高所からの判断ができる国と出来ない国の違いがあるのだろう。



1 日米の対立気運の高まりと対日戦争計画の策定

太平洋の覇権を握り、支那大陸への進出を虎視眈々と狙っていた米国は、遠大な計画のもと着々と有利な戦略環境を形成し、軍事態勢の構築を目指した。対日戦争計画はオレンジ計画と称され、1924年初頭には最終案が陸海軍合同会議で承認された。太平洋を戦場として、対日戦を如何に戦うかを模索し始めたのだ。

2 日英同盟の廃止と日本を大陸に釘づけ

第一次世界大戦後、日本の中国大陸への侵出を警戒した米国は、英国に対して日英同盟の破棄を要求するようになり、イギリスも日本の中国進出を危惧し、日米対立に巻き込まれることを回避するために日英同盟の破棄を決意した。ワシントン軍縮会議の協議を経て、1921年12月に締結された太平洋に関する四カ国条約（日英米仏の四国）の中で日英同盟の破棄を盛り込まれた。日本とイギリスの同盟関係は約20年で解消された。日本を牽制し、満州進出を目論む米国の戦略的勝利である。その一方で、米国は、日本の大陸進出を牽制し、介入・干渉するなど中国に肩入れを始めた。

3 有利な軍事態勢の構築

(1) 太平洋横断南方航路の開設

米海軍がアジア等に向かう航路は、西海岸～ハワイ～グアム～比のマニラ～シンガポール（英領）であるが、本航路は日本の南洋群島からの横撃を受ける可能性が大である。従って、その南方に有力な航路帯を設けることとした。それは、ハワイ～ニュージーランドのオークランド～豪州のダーウィンからシンガポールを結ぶ航路帯だ。マッカーサーが辿った作戦軸だ。

(2) ハワイの軍事基地化

1898年にハワイを併合した米国は、太平洋の要として太平洋艦隊を真珠湾に配置し、軍備強化して西太平洋の一大軍事拠点化した。

(3) パナマ運河

太平洋と大西洋の両洋を結ぶパナマ運河は、米国により1914年に開通した。本運河の開通は、米国に経済的・軍事的に多大なメリットを齎した。太平洋にも大西洋にも米艦隊を展開させ得るとするのは作戦の自由度を大いに増大せしめた。

(4) グアムの軍事基地化

米西戦争に勝利し1898年のパリ条約でグアムは米国に割譲された。グアムはマリアナ諸島の南端に位置し、西進する米艦隊の側背援護の位置にある。

尚、第一次大戦後、所謂南洋諸島（マリアナ、パラオ、カロリン、マーシャル諸島）は日本の委任統治領となったが、その中の一島がグアムである。日本の委任統治地域に楔を打ち込まれた状態だ。

(5) フィリピンの植民地統治、軍事基地化

米軍がアジアで保有する在比米軍基地で、クラーク空軍基地（1903開設）、スービック海軍基地（スペインから引き継ぎ）が主要なものである。

シンガポールの英国極東艦隊と連携して、日本軍の進出を抑える一大要衝である。

4 米国の遠大且つ深謀遠慮に驚く他なしだ。翻って日本は日米戦に備えて何をしたか？日本は開戦劈頭、これらの諸要域を攻撃・無力化し或いは占領した。唯一米豪遮断はならなかったし、パナマ運河は計画するも実際に攻撃するには至らなかった。

(了)